

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100470		
法人名	特定非営利活動法人 緑風会		
事業所名	グループホーム 大清水		
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢158-2		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>《グループホーム大清水の運営方針》 利用者にとって家庭であり スタッフにとって家族である 敬愛な気持ちをもって 楽しい時間を作り上げていく 地域の行事や、地域の方々と交流をはかり、ともに歩むことに努める 季節折々の風景・情緒が楽しめる近場の名所公園等に各月ごとにドライブしたり、毎月外食ランチの日を設定して好き好きに昼食を楽しむ機会を持っている</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年8月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、榛名山南麓の畑に囲まれた田園地帯にある。日々の生活の中で食べたいものを聞き調理したり、入居者の希望を取り入れた月1回の外食や花見などの外出行事が行われている。外出行事の写真は食堂に飾られ、その写真を見て当時の状況が話題となり楽しそうに語られている。食後にソファで本を読んでいる人など、静かな環境の中で入居者一人ひとりが落ち着いたゆとりと充実した日常生活が送れるよう支援している。 また、3ヶ月毎に行なう家族アンケートやケアチェック・アセスメント表に基づき、より良い生活が送れるよう介護計画を全職員が参加するケース会議で3ヶ月毎に見直すと共に、ケアチェック・アセスメント表の変化を受け現状に即した介護計画を作成している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『利用者にとっては家庭であり、スタッフにとっては利用者は家族である』という理念のもと、支援をしている	開設当初から「利用者にとっては家庭であり、スタッフにとっては利用者は家族である」の理念を掲げている。地域密着型サービスへの改正後、方針として「地域の行事や地域の方々と交流を図り、共に歩むことに努める」と行った内容を加え、実践の中で目的等を活かすよう努めているが、理念の見直しは行われていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には、ほぼ毎日散歩に出かけて近隣の方と声をかけたり、かけられたり触れ合いを持っている	施設長が事業所の近くに住み、地域の清掃活動等に参加している。散歩に出た際には、ウォーキング中の近隣の方と挨拶をかわしたりしている。地域の行事が少なく夜間開催のため参加する機会は少ないが、10月にはホーム共催で地区神社祭りをし、利用者は太鼓演奏を楽しむ予定である。また、地域のボランティアの方が見え、週1回太極拳をしたり、歌を歌ったり、月1回三味線演奏やハーモニカ演奏を聞いたりしている。年に1度は明和県立高校の文化祭に招待を受け出かけている。(今年度はインフルエンザのため中止)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大半の職員が近隣在住であり、地域住民として地域の行事・活動には積極的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月の会議で利用者の近況説明をし、課題等も話し合い、情報の共有に努めてサービスの実践に活かすようにしている	運営推進会議では、インフルエンザ対策等の近況を報告している。会議では協議事項①利用者にとって生活環境はどうか②散歩・外出等は日常生活に変化をもたらしているか他4項目を協議し、2ヶ月間の報告をしている。報告は重要事項を記録し市へ提出している。ホーム内の記録は残していない。	毎回の会議で2ヶ月間の様子を詳細に伝えているので、ホーム内での記録を残されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議結果等の報告やサービス等の課題についても相談したり、報告をしている	更新書類等を持参した際に、入居者の受診や生活保護対象者の支援について相談し、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も緊急時若しくは目が離れる時以外はしない 危険性防止については家族に説明して対策をとっている	外出傾向のある利用者には、話題を変えたり、時には一緒に散歩に出たり、庭で好きなように過ごしてもらったりしている。玄関は、職員の目が離れる時に鍵をかけている。また、外出傾向がありトイレの窓から出ようとする利用者の部屋の窓には2つの鍵で窓から出ることを防ぎ、夕方の外出傾向が見られる時間帯は居室から居間兼食堂に行く廊下に扉を設け危険防止の為鍵をかけている。	今後も鍵をかけないケアを行うよう引き続き検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習等に参加し、日常においては利用者には何らかのアザも見逃さず、発見した場合は職員全員に周知して原因等に対し防止方法をとっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にも参加し、社会福祉協議会の権利擁護係とも密接に連携している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内を案内し、契約内容の要約説明も十分して理解を得た上で以後の話を進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月毎にケアプランを見直しているのので、そのつど要望等アンケートをとり、毎月の報告でも意見を受けるようにしている	3ヶ月毎に事業所の運営等について家族アンケートを行い事業所に対する意見・要望を聞くと共に、運営推進会議の議題に「毎日の食事に変化があり満足しているか」他5項目について協議し、家族等の意見聴取に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケース会議を実施し、職員同士で提案を出し合い、また日常的にも意見交換をして、反映できるように努めている	毎月開催するケース会議で、外食やドライブ等の行事内容について意見交換を行っている。また、仲介役となり職員の意見を施設長に取り次ぐよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	変形勤務であるので、シフトを組む前月には休暇希望を出せるようにしている 又職員の提案要望も検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市、協議会等で実施している研修会や講習会等に機会を得て参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営上の課題や、協議会主催の交流事業には積極的に参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には自由に見学をしていただき、家族同伴で来られるようなら施設内を納得いくように案内して説明をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望者本人についての生活課題等も伺いながら、課題にもできる限り対応するようにしてサービスに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に生活課題がある場合には、それを主として対応して、早期に落ち着いた日常生活が営めるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自由な会話を楽しみながら、有意義な日常生活が送れるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のみならず家族の思いを十分に受け止めて悩み事にも耳を傾けて対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	引き継ぎ事項に係わらない方の面会は自由にして、外出時には自宅周辺を通るようにして思いを馳せられるようにしている	家族と墓参りに行く入居者、同級生宅へ行きお茶を飲んでくる入居者など、馴染みの場所や人との関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話好きな利用者は、聞き上手な方に聞いてもらうと特に落ち着いてリラックスできるのでそれを支援し、聞き手の方が疲れない程度にこころ合いを見て介入するようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族等から電話が来るのもしばしばあり、必要に応じて相談支援をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の居室で希望や思いを聞いたり、日常の何気ない会話・仕草から生活歴等を把握している。家族の面会時にも希望や意向の把握に努めている	入居者一人ひとりが落ち着いたゆとりと充実した日常生活が送れるよう、日々の生活の中でやりたいことや食べたいものなどを聞いている。また、3ヶ月毎に行う家族アンケートで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、今まで使用していた馴染みの物品や道具等を持参していただき不安を和らげるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の会話や、入浴時等にその日の様子や状態等を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族アンケートの意見を参考にしたり、直接意見要望を聞き、ケース会議で職員同士で情報を共有して介護計画を作るようにしている	入居者がより良い生活を送れるよう、3ヶ月毎に行う家族アンケートやケアチェック・アセスメント表に基づき全職員が参加するケース会議で3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、介護計画は郵送し、家族の意見要望等を記述して返信してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、職員全員が利用者全員の状況を把握するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型ディも利用できるようにしている 現在では一人の男性が毎日利用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護支援相談員の方が毎月2名来ている 又毎週1回の太極拳や月1回の三味線とハーモニカ歌謡ボランティアの方々が定期的にきている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2名の医師が隔週で往診し利用者の健康管理に努めている 緊急時の往診も相談もできている	2名の協力医が、各々の担当入居者を隔週毎に往診している。1名の協力医は、緊急時の往診も行っている。歯科等の専門医の受診は原則家族対応であるが、家族が送迎できない時は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に同伴する看護師の指導助言を得たり、その指導を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者及び家族と情報提供の同意を得ているので、医療機関への情報提供書や介護記録を提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医との連携を密にして、家族の希望があればターミナルケアも行っている	文書化された方針はないが、家族と医師の協力が得られる場合は、終末期を迎えた入居者の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	複数の職員が普通救命講習を受けており、主治医との連携の下、緊急救急対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地理的条件・状況を把握し、緊急時には消防署指導による避難訓練に沿って対応する近隣の方々にも緊急時の協力をお願いしている	年1回消防署の指導を受け、今年9月に消火・避難訓練を夜間想定で行う予定である。また、スプリンクラー設置会社による自主訓練を1月か2月に実施予定である。災害時には隣家の人と消防団員・近くに住む親族4名の協力が得られるよう依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に声掛けを多くして落ち着いて過ごせるようにしている 個人情報関連は厳密に管理している	居室への入室はノックし声かけを行うと共に、トイレ誘導やオムツ交換は他の入居者に気づかれないよう介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や外出ランチの日を設けたりTVチャンネル等でも選択肢をいくつか提示して自己決定してもらう自己決定の困難な利用者には簡単な質問をもって対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを観たり日向ぼっこ・散歩を随時行い、居室でテレビやラジオを楽しめるようにしている 拒否的態度があれば無理はせず様子を見守るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が散髪したり、安価に女性のカットを定期的に行っている 一緒に買い物に行ったり本人が希望する物を買っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや皮むき等を行っている 下膳はできる利用者はカウンターまではもってきたり、月に1度は外食ランチを実施し事前に食べたい物を聞きながらしている	日々の支援の中で食べたいものを聞き調理したり、入居者の希望を取り入れた月1回の外食行事を行っている。以前は職員と一緒に食事を摂っていたが、入居者から「勤務時間中に職員が食事をしている」と意見があり、現在は1名のみ同席して他は食事介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康面を配慮し、量的にも栄養バランス的にも変化を持たせた食事と脱水症状には特に気をつけている 利用者個々で摂取に違いがあるので見守りも含めて気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に応じて口腔ケアに努めている 夕食後には入れ歯は預かって衛生管理に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンや時間帯の把握に努めているが、体調の変化もあるので波がある トイレ誘導は本人意思確認も踏まえて、早めの対応を図っている	排泄パターンはバイタル表に記録して、トイレ誘導している。パットを利用するなど「オムツ外し」の支援を行っている。また、市の「オムツ助成」制度を家族に情報提供し、家族の意向に沿って対象者におむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の状態把握に努め、水分量や流動性食物への配慮をしている 野菜の摂取を欠かさないようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホールの壁に入浴予定の表示をして利用者が前もって入浴を意識できるようにしている 入浴拒否もあるので、その人は別の日に入浴する場合もある	季節を感じられるゆず湯等で入浴を楽しむ支援を行い、入浴中は好きな音楽を流すことなどを検討している。入浴を拒否する人には、入浴日をずらすなど週2日の入浴を原則としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝については居室で過ごすようにしているが、ホールにいることも自由になっている 夕方はテレビを観ている人も就寝する人もあり、ホールで過ごしてから就寝する人もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の病状に応じた投薬理由を理解し、薬の管理安全に努め、誤用皆無にして症状の変化把握に努め主治医との連携を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日には、散歩やドライブに行ったり桜の樹下で昼食したりお茶をしたりしている 庭掃除や洗濯ものの整理は本人意思を引き出すようにして談話の中でのしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩は本人意思も踏まえてケアしているが、外出ドライブ等はグループ集団での事が多い個々では家族同伴の下、墓参りや帰宅等も行っている 混雑・危険性を配慮すると行けないことも多い	陽気の良い時に散歩をしたり、施設長と買い物に行ったり、庭掃除をしたり、また、花見など季節毎のドライブや外食行事など戸外に出かけるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭・貴重品等は本人所持・預かり管理は基本的にしていない 金銭を持っていないと不安感を持つ人については持ち金を所持してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が希望すれば支援しているが、最近では殆どその要望もみられない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光・喚起には十分配慮したホールで過ごす時間が多い 衛生管理を各部署で徹底することに努め、夏季・冬季の温度・湿度管理には細心の注意を払っている	居間兼食堂には行事の写真や塗り絵・貼り絵が飾られ、食事時に楽しかった外食や花見などの外出行事が語られている。食後にソファで本を読んでいる人などそれぞれに居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールをL字型に増設し、共有スペースとしてテレビも2台設置して自由なテレビ観賞ができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には全室エアコンを設置し、年間を通じて快適な室内管理に努めている	居室は衣装箱で整理され、貼り絵や塗り絵が飾られている。全室エアコンが設置され、空調管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁面には、行事予定や思いで記録写真等を掲示して、本人の自立を促すようにしている手作りの日めくりカレンダー等で日時も理解できるような環境作りにも努めている		